

# ユニバーサル農業 優秀賞

## プラチナ大賞 都内で審査会 浜松市や企業、人材活用

地域課題の解決に取り組む自治体や企業などをたたえる「第7回 プラチナ大賞」の最終審査会が5日、都内で開かれ、障害者や高齢者ら多様な人材が活躍できる農業として、浜松市や地元企業などが進める「ユニバーサル農業」が優秀賞に選ば

れた。同市の入賞は2年ぶり3回目。最終審査では、全国から応募があった47団体のうち、1次審査を通過した13団体がそれぞれの活動を発表し、浜松市を代表し、農業法人「京丸園」(南区)の鈴木厚志社長が登壇。障害者が働きやすいように機械化による作業の標準化を進めたことなどを紹介して「変わるのは障害者ではなく、農業だ」とし、障害者の雇用増に伴って売り上げも伸びていると強調した。

伊藤忠テクノソリューションズの特定子会社で、障害者を雇用して農作業を請け負う「ひなり」(東京都)の浜松オフィスなども連携しているとし、「福祉、農業、企業の三方良しの関係が築けている」と述べた。

大賞は弘前大・青森県・弘前市とリクルート・和歌山県有田市の2組が受賞した。自治体首長や企業経営者らでつくるプラチナ構想ネットワークなどが主催した。



優秀賞のトロフィーを受ける京丸園の鈴木厚志社長(中央) = 5日午後、都内

(東京支社・八木敬介)